

林建良／在日台湾同郷会顧問

(本稿は平成15年5月31日、下関市で行われたアジア文化交流会主催の講演会における講演の筆記である)

一人の台湾人として、皆さんに同志になつてもらひたい思ひでここに参りました。テーマは21世紀の大アジア主義ですが、大アジア主義といふ言葉は、いろんな解釈があります。孫文も言つたし内田良平さんも言つた。侵略主義とも解釈されてきました。そして今現在、主に右の人間が大アジア主義の看板を掲げてやつてゐるやうな誤解もされてゐます。私にとつての21世紀の大アジア主義といふものは、どういふものか。

戦後50数年間日本は全く外国と紛争なしで、非常に平和な国になつてゐます。日本ほど平和な国はありません。まづあらゆる国は、数十年間一度たりとも外国と争ひ事がなかつたといふことはあり得ないのです。しかし、それは日本が問題にずっと目をつむり続けてきたといふことなのです。アジアの中に紛争がない訳ではありません。日本は責任をとらなくていいやうになつてただけなんです。全ての責任はアメリカにとつてもらつてゐる訳です。この日本は幸せなのか、責任をとらなくていいやうな国になつてラッキーなのか。日本を愛する一人の台湾人として、日本の現状を危惧してゐます。虚無感が漂つてゐる無気力、自信喪失の日本になつてゐる訳です。では、どうすればいいのか。日本はどこまで真剣に自分の病状考えてゐるのか。私は非常に不思議に思ふのです。

21世紀の大アジア主義とは何か。日本がアジアに対する貢献は何か。一言でいへば、日本が強くなることなのです。日本が強くなることによつて、アジアに貢献する訳です。何故日本が強くなればアジアに対する貢献ができるのか。まづ一つの例から話をします。

それはSARS問題です。SARS問題程、アジアの問題点を指摘できるものではありません。SARSは、中国から発生したもので騒ぎ出したのは本当につい最近なんです。台湾では3月14日に、初めてSARSが報道されてそれから今日の有様になつてゐる訳です。今日は5月31日、たつた2ヵ月半の内に世界が変はつてしまつた訳です。SARSの威力は、我々の想像を越えてゐますが、本質を突き詰めて考へれば、アジアの問題点が浮かび上がる訳です。

今公表されてゐる記事だけによると、去年の11月広東省の佛山市で発生して、それから2月に香港で患者が出てそれが広がる訳です。これはあくまでも中国が認めたケースがかうなんだといふ訳なんです。まあ中国といふ国は、目の前に証拠をつきつけられて、初めて「ああさうですか、さう言へばさういふことがあつたかもしれない。」といふ国なんです。しかし、台湾大学伝染科部長、張上淳教授によると、SARSらしい患者を診たのは、去年の2月だつたんです。要はさらに1年前のことなんです。このケースはどういふケースかといふと、台湾人企業家が中国広東省で熱が出て、一週間の内に亡くなつたんです。たまたまその企業家の奥さんが、医療関係者でどうしても納得いかない。何でそんなに早く死んだのかと。そのレントゲンやいろんな検査資料を台湾に持ち帰つて張上淳教授に見せた訳です。すると、張教授は、病原菌についてどうしてもわからないことが出てきたのです。その時もう密かに台湾にさういふ噂があつた訳です。中国ではもしかすると、新種のインフルエンザが流行つてゐるのではないかとといふ噂でした。

去年2月のケースも、もしかするとSARSだつたかもしれません。ここからどんなことが見えてくるか。まづ、SARSの一番の発生源は、広東省の軍関係病院です。この病院に関はつた人間がSARSになつたと言はれてゐる。今はですね。ハクビシンといふジャコウ猫と関係してゐるのではないかと、遺伝子の配列は全く同じだといふ報告が出てま

す。それはそれとして、SARSといふ存在が恐らく中国が認めたよりも早く出た。

この SARS 事件から一つ見えたのは、中国の体質そのものなんです。この中国の体質の一番よく批判されてみるところは、隠蔽体質、データの偽造、自分にとって都合のいいやうに造つたりすることです。まあそれだけだつたら、日本の元大蔵省とか、今の銀行でもさういふ体質は持つてゐる訳です。しかしそれだけではありません。中国のもう一つ恐ろしい体質は、高々何人死んだといふことで何でこんなに大騒ぎをするのかといふことなんです。人間の命、外国に対する無責任極まる考へ方こそ、中国の価値観そのものなんです。要は自分と関係ないものであれば、どうでもいいんです。中国の SARS 騒ぎの後、中国の権力の中樞はどう対応しましたか。江沢民さんは北京から離れた。北京は患者が多いですから、いかに権力を持つてゐても、もしかすると首脳陣か誰か、ボディガードとか SARS が移つた可能性もあるし、怖いから上海に逃げた訳です。それからその後、北京を実質的に封鎖したのです。高速道路のチェックとかかなり厳密なんですね。まあそれは当然といへば当然なんです。伝染病を退治する原則はたつた一つなんです。徹底的に隔離する、それだけなんです。ワクチンが開発前にできることは隔離だけなんです。

しかし隔離するために何が必要なのか。情報の公開が必要なのです。隔離される訳ですから、仕事もできないし、友達にも会ひに行けないし、大変なことなんです。非常に不便なんです。できるだけ隔離されたくない。さういふ意味で北京、広東省、広州以外の所はどうなつてゐるんでせう。それはわかりません。要はそのデータを出せば出す程、怒られるんですから。出せば出す程中国はきちんとやつてゐないといふ証拠になる訳ですから。今までの中国の隠蔽体質、そして中国の人命に対する考へ方からすれば、要は権力が守られれば、人間の1人や2人死んだつて大したことない。実際同じやうなことを毛沢東も小平も言つたことがあるんです。中国で数千万人位死んだつて、どうつていふことはない。それは彼らの人命に対する考へなんです。このやうな国が強くなつたら、大きくなつたらどうなるでせうね。自国の人民の命でさへ全然重視しない国が、他国の国民の命を大切にしてくれますか。それはあり得ない話なんです。

それともう一つ、中国の今の内部のこの SARS 問題でもわかるやうに、中国の中の富の分配からしても安全の対処からしても、先程言つたやうに、北京の処置とそれ以外の所の処置とはまるつきり違ふ訳です。そして、上海の処置と広東省の処置もまるで違ふ訳です。それは何故なのか。命の価値が違ふからです。このやうな国は、要は富の分配も非常にばらつきが大きい。実際、中国の元首相、朱熔基さんが自分の人民大会でかう言つてゐます。中国の富の分配は、50%以上の富が1%の人間の手に入つてゐると。しかし、中国人は決して大人しい民族ではありません。彼らが続けて国を一つとして統治していけるといふ方法は、たつた一つなんです。膨張し続けることなのです。ずっと拡大し続けるんです。国民の注意力を外に向けさせる訳なんです。中国人の最近の反日キャンペーンは、凄まじいものがあります。皆さん、インターネットをなさつてゐる方でしたら、中国のインターネット、ホームページをクリックすれば、官製ものも含めて極めて汚い言葉で日本を罵つてゐます。中国人にとっては日本民族はもう世の中に存在しなくていい存在なのです。このやうな言葉が公然と、中国の人民日報とか中国の官製のインターネットのホームページの中に書かれてゐる訳です。あの人達ははつきり言って、ほとんどの人は生まれてから日本人を見たことがない。では、何故彼らは過激的に反日になつてゐるのか、それはもちろん国の政策だから。小泉首相が北京に行つて見学させられたのは、抗日記念館といふ所です。一国の首相が中国を訪問して中国人に、ほら日本人はこんなに残虐なんだ、日本人はこんなひどい民族なんだと、日本がいかにだめな民族であるかといふことを教へられた訳です。

何故日本をそこまでやつつきたいのか。先程言ひましたやうに、中国は非常に問題を抱へてゐる。内部の情報の隠蔽の問題だけではなくて、富の分配の不公平、安全の対処の不公平、権力の分配の不公平からすれば、中国はこれからまともな国に育つていくことはほぼあり得ない。しかしまともな国に育たなければいけない。だから、日本は中国のナショナリズムを煽る最高の対象になつてゐる訳です。恐らく日本人は中国人を、いろんな書物から、中国四千年の素晴ら

しい文化から、美しい漢詩から、美しい唐詩や宋詩から、美しい文学から、中国はこんなに立派な国なんだと理解してゐるのではないかと思ひます。しかも日本人は一つ非常にいいところがあるんです。それは相撲を見ればわかります。アメリカ人の野球は審判が少しでも間違つたら、納得できないところがあつたら、すぐ手を出すんですね。これはアメリカといふ民族の性格かもしれません。しかし日本の相撲は、どんなに行司が判断を間違つてもあるひは物言ひがあつても、審判が全員出て来てそこまでなんです。それから例へばビデオを回し直して、どちらの足が先に出たかをチェックするといふやうなことはやらないんです。やれないんですか。やれますよ、やらうと思へば。しかしやりません。何故かといふと、それはスポーツではないからです。日本にとって、相撲は一つの儀式であり、魂の現はれでもあるんです。その潔さといふものは、日本の一番の長所であるともいへます。しかし戦後の日本はそれによつて駄目にされたこともあります。

要は戦争に負けたから仕方がない。日本人は非常に諦めが速い。仕方がないと思へばもうそれから画策して巻き返すといふことはあまりやらない。中国に負けた訳でもないのに。中国ではなくアメリカに負けたんです。しかし、一応戦争に負けた、悪いこととしたといふ概念が戦後の日本にずつと残つてゐる訳です。その結果としては、中国にどんなことをしてやられても仕方がない。終ひに人間が拉致されてもそれは仕方がない。テロ国家とはいへないと。今日の産経新聞の一面に、日本の高級官僚田中均が、アメリカに行ってアミテージ氏と会談して、金正日体制を保障しろと言つたさうですが、これが今の日本なんです。はつきり言ってこの言動はコメントしやうがない。一体どこの国の官僚なのか。あなた日本人なのかと、恐らくアメリカ人に呆れられてしまつたと思ふのです。これが日本の現状であつて、その日本はアジアで唯一中国より力を持つてゐる国なんです。この中国より力を持つてゐる国が、中国の今の犯罪行為を見逃すといふより、助長しているんです。日本が加担しているんです。SARSの問題に戻りますが、SARS感染台湾人医者の来日騒ぎで、日本政府の反応は立派でした。日本政府は厳しい口調で台湾に抗議し、台湾政府も、すぐに日本に謝罪したんです。これが本当の国のあるべき姿なんです。しかしSARSをつくつた中国に、日本政府が抗議したといふ話は聞いたことがありません。台湾人の医者が日本に来たといふことには猛烈に抗議しながら、中国には一番手厚く援助した。世界のどの国よりもたくさんの援助物資を中国に送つたんです。

台湾政府はWHO総会で、台湾はSARSで苦しんでゐるんですから情報を下さい、台湾にも関心を持つて下さいと言つたら、中国の副首相呉儀と元軍縮大使の沙祖康という人は、台湾の新聞記者等マスコミに対して「お前達は誰も相手にしないぞ。うるさい。出て行け。」と言つた。その場面は、台湾のテレビで繰り返し報道されておりました。それはよかつたんです。何故かといふと、それがまさに中国人の本質だからです。それから数日後、中国は台湾を援助したいのでマスクをいくらかあげるからと。一方では日本の援助を受けながら、では今度は台湾に援助でもしようかと。

まあ台湾の医療水準は、もし台湾の医療レベルをご存知であれば、中国は台湾と比べられない程低いですよ。台湾の医療レベルは極めて高いです。日本と比べても負けることはありません。だから台湾がその援助を拒否したんです。まあ背骨のある人間は、それを拒否するのが当たり前なんです。それから中国は厳しく台湾を批判したんです。中国の反応はどんな反応かといふと、俺の酒は飲めないのかといふ態度なんです。台湾では、俺の酒は飲めないのかと絡んでくるチンピラはゐない訳ではないが、まづまともな台湾人は、さういふことはやりません。それは台湾と中国の違いなんです。台湾人と中国人の違いなんです。

中国は、SARSの問題についてWHOの調査も拒否し、情報の公開も拒否した。SARSが明らかになつただけで、もし明らかにならなければ恐らく隠し続けたと思ひます。中国人の密入国者を見ればそれがよくわかります。中国人の密入国者はピッキングをやつたり、売春をしたりする。そして今、凶悪犯罪の半分以上を、中国人がやつてゐる訳です。中国はそれについて何を言つたか。どんな誠意をもつて対応したのか。中国人が目の前にゐるのに、中国政府は「いや、これは中国人かどうか確認できません。」と。要はもう関係ないんだから。というのが彼らの言ひ分なんです。

あの鉄面皮が、恐らく日本人がまともに中国の相手をしようと思へば、もう脳梗塞で死んでしまふでせう。

だからこれが問題なんです。しかし中国といふ国は拡張し続ける。拡張し続けなければ生きていけないんです。さうするとどういふ問題になるかといふと、中国は石油の輸入国世界第二位になつたのです。だから石油資源を欲しがるといふ訳です。海底資源だけでも中国は充分紛争に成り得る。さうすると、今までシーレーン問題は日本だけのことのやうに日本人が考えてゐるが、シーレーン問題はこれから中国にも出てきます。中国の石油航路の保障、自国にとつての保障が必要になつてきます。海洋国家をめざす時、必ず出てくるのは紛争です。だからベトナム、フィリピンとも事を構へた訳です。

しかしこれだけだつたらまだいいんです。それから中国の環境汚染の問題。実際つい数日前に北海道で霧がかかつてゐたのです。それは中国からの霧のやうなのです。関西地域でも黄砂が飛んでくる訳です。中国人は木を植えないのです。中国人は木を切るだけなのです。何故かといふと、中国人は木を植えても自分が享受できないから、人が植ゑた木を切るのです。中国人が台湾にやつて来た時、当時は台湾を日本が統治して五十年経つてゐて、後藤新平さんの都市計画が非常によくできてゐて、街並みは東京よりずっと進んでゐた。私が昔勤めてゐた病院の中山北路、両側の並木は、日本政府が植ゑたのです。未だに非常にきれいです。しかし、あらゆる所へ蒋介石の中国人兵士がやつてきて、それを切つてしまつたのです。何故切つてしまふかといふと、危険だからと。並木があつてなんで危険なのですか。いや、敵が後ろに隠れてゐるかもしれないから危険だと。中国人は、自然、緑を大切にするといふ概念はありません。それを切つて薪にするか、そのまま捨てるか。それが今の中国の砂漠化の原点なのです。

要は私が言ひたいのは、アジアの問題の源は中国なのです。北朝鮮なんかではないのです。北朝鮮は所詮チンピラ国家なのです。中国はそれを止めようと思へば、北朝鮮は何もできないのです。後ろの巨悪は中国だから。この中国の問題は、誰に頼んで解決してもらふのか。アメリカですか。今のところアメリカなのです。しかしアジアの問題は、アメリカに100%任せていいですか。アジア、台湾もさうなのですが、日本の利益はアメリカと100%一致しますか。もちろん一致しないですね。それぞれの家庭と同じやうに、国それぞれの事情があつてそれぞれの利益がある。自分の国の利益は自分が守らない限りは、尊敬される国にはなれません。自分のことも尊敬できません。結局その国は、属国かペットになる訳ですね。まあ食事もできるし住むところあるし一応安全だし、檻の中にある訳ですから。ペットなんです。

しかし特に日本人の考へは、中国人と違ふ点がもう一つあります。死生観、魂について、です。日本人は単に生きるだけでいいといふ民族ではないのです。日本人はいかに美しく生きて、美しく死ぬか。生きられるだけで満足するやうな民族ではありません。しかし、日本がもし自分でアジアに対して責任を果たさなければ、ずっとそのペットのやうな民族になる訳です。だから日本のアジアに対する貢献、いはゆる21世紀の大アジア主義といふものはどういふものか。それは強くなること。強くなつてどうするか。あるひはどうやつて強くなるか。まづ日本としての国家戦略を立てなければいけない。どんな国家戦略かといふと、東アジア連合を作るべきなのです。東アジア連合をいふと、皆大東亜共栄圏を思ひ出す。大東亜共栄圏は侵略戦争の口実だと批判してゐる人もあります。しかし、大東亜共栄圏もしくは当時の大アジア主義といふのは、今現在とはかなり違ひます。どんなに違ふかといふと、当時としては欧州、白色人種の植民地、帝国化、膨張主義に対する反抗なのです。当時のインドネシアはオランダの植民地になつて非常に苦しんだ。インドはイギリスの植民地になつて非常に苦しんだ。中国も同じなのです。だから当時の大東亜共栄圏といふ概念は、ある意味でアジアは一つだといふスローガンであつて、要は当時の悪であつた帝国、白色人種の膨張主義に対する反抗なのです。

しかし現在は、恐らく中国の飽くなき膨張主義、膨張主義といつたらなにも軍事とか、資源だけではないのです。経

済だつて同じなんです。中国は意図的に自分の為替を操作して30数%も一気に下げて、見た目としては非常にコストを安くして全世界の資金をそつちに吸収する訳ですね。世界的なデフレ傾向は、中国と非常に関係してゐます。特に日本と台湾の産業空洞化、資金も行つたし、工場も行つたし、人間も行つたし。では何が残るのですか。行けない人が残るだけなのです。行ける人は全部行つたのだから。その中国が日本の産業空洞化を考へてくれるのですか。もちろん考へてくれません。だからその時日本はどうするか。東アジア連合をまづ作るのです。東アジア連合といふものは、そんな大それたものではないのです。現にEUというふ例があるのだから。EU、欧州共同体といふものはどういふものか。人的往来を自由にする。通貨を同じにする。サービス業の認証、資格を共通にする。この国で医師免許をとつたら、あの国に行つても医者になれる。この国で運転免許とつたら全欧州が回れるのです。通貨も一緒だから、サービス業も法律も規制はできるだけ抑へて、それによつて人的交流、資金的流通をはかれば、為替のリスクがなくなる。非常にチャンスが多くなる訳です。同じやうなことが何でアジアはできないのか。アジアはばらばらだから、アジアは非常にバラエティに富んでいるから、非常に所得も分散しているから、その通りなのです。だから難しい。できないことはない。アジアの国々の中で、さういふ気持もあつて比較的所得に近い、社会的体制に近い日本、韓国、台湾、シンガポールならできます。加へてアジアの一員にならうとしてゐるオーストラリア、ニュージーランドを一緒に入れば、この5か国のアジアの先進国だけ。しかも資源は、オーストラリアにはたくさんあります。土地もたくさんある。補完的な効果があります。まづ意欲があります、一番大切な。しかし、意欲がないのは日本だけなのです。この提案は韓国もしたことがあります。もちろん韓国はいろんな問題を抱へ反日感情もあるのですが、もし日本から台湾に提案すれば、夜中でも飛んで来ます。私自身が経験した例を申し上げますと、2001年5月5日、私は現在の日本の副大臣、矢野哲朗さんをわが陳水扁總統に会はせた。その時、矢野哲朗さんは参議院の外交防衛委員長でした。それなりに外交のことに関はつていたのです。彼が陳水扁總統との話の中で、将来的に台湾と日本はFTAを結びませうよと。矢野哲朗さんから、陳水扁總統に提案したのはどういうことかといふと、日本全体は難しいから沖縄からでもやりませうよといふことでした。沖縄なら簡単かもしれません。2001年の5月5日、矢野さんはさういふやうに提案した。翌日の台湾の新聞に大きく報道された。自由貿易地域に今FTAを結んでゐる国々は大体百以上あります。まあ一番有名なのは、ナフタといふ北米自由貿易地域、アメリカ、カナダ、メキシコ。日本とFTAを結んだ国はないのか。あります。シンガポール。シンガポールは人口360万。ちつぽけな国で農業がないからやり易い。やり易い国から始めるといふことは悪いことではないですが、そこでとまるといふことは責任感がないのです。

要はそのやうな需要、そのやうな必要性を感じてゐる日本人も台湾人も多くゐるといふことです。この構想を出して進めていけばいいのです。まあ構想があつても政治家が動いてくれないと駄目だと、官僚が動いてくれないと駄目だと日本人は思ふ。実際さうなのです。では、我々はどうすればよいか。私はこの構想は、実は我々一人一人の運動によつて実現できるものだと考へてゐます。どのやうにすればいいか。一つは日本が自信を取り戻すことだと思ひます。具体的に日本の自信、日本のアイデンティティ、日本民族の魂をどうやつて取り戻すのか。それをお話する前に、一つ紹介したいことがあります。

台湾人は親日感情が強いといはれてゐます。実際さうです。しかも日本植民地時代を経験した人間程親日感情が強い。要は日本人を知つてゐればある程、親日的なのです。何故台湾は親日的なのか。この親日感情の原点にあるのは、台湾人が憧れてゐる日本精神にあります。日本精神は台湾人が付けた名前なのです。日本では日本精神といふ言葉はないのです。我々は台湾語で「日本精神」を「ジップンチンシン」といふのです。「日本精神」とは、自分の利益よりも公の利益を優先させ、自分の伝統文化と自分の国を守る気概なのです。台湾人がその日本精神に憧れてゐるから親日的になつたのです。私は日本に来るまで、親父から日本はどんなに素晴らしい国かといふことをずっとずっと聞かされた。そこで、私は日本精神の原産国に行つてその日本精神を経験してみたいと思ひやつて来たのです。1987年から現在まで15年経つてゐますが、残念ながら日本で日本精神をいくら探しても見当たりません。

台湾人は宝物だ思つて憧れてゐる日本精神は戦後の日本人によつて捨てられたのです。その日本精神の原点はどこにあるのか。難しいやうで簡単なのです。要は日本が異常に激しく攻撃されてゐる問題を直視すればいいのです。日本はどういふ問題で攻撃されてゐるのかといふことは、日本がどれだけ恐れられてゐるのかといふ問題でもあるのです。それは、日本人が魂を取り戻すことを、非常に中国は恐れてゐるのです。その一番代表的な問題は、「靖国問題」であります。靖国問題は日本の気概、国を守る意志の象徴であり、日本の魂の問題なのです。自分の魂の問題は他国に伺ひをたてる必要はありません。日本民族の再生はまづ、その魂を取り戻すこと。それが日本民族のアイデンティティであり日本人の気概であるのです。それがなければいくら理屈をいつても、それは机上の論議に終つてしまふのです。

ではどういふことを具体的にやればよいか。ここまでくれば簡単です。もう靖国の論争はやめませう。もうやめよう。実行するだけ、参拝するだけ。全ての政治家に参拝するやうに要求する。参拝しない政治家は運動を起こして落選させる。2度と当選させないやうにします。それならできるのではないですか。票は皆さんの手にあります。こいつを落選させたいと思えば落選させられます。できなければ、それはもはや政治家の責任でも官僚の責任でもない。有権者の責任です。自分が魂を取り戻す勇気もなければ気概もない。だつたらそれは、日本がこれから先も無気力な国である続けることは仕方のないことです。

私は靖国問題は攻撃されればされる程、この問題の大切さを身にしみます。しかし日本人は靖国問題を避けてゐます。家庭の中でも話題にはならないし、学校ではなおさらなのです。皆タブーと思つてゐるのです。しかし攻撃する方は全然遠慮はしないのです。要は徹底的に潰したい訳なのです。幸ひにして日本人の魂は完全に消えた訳ではありません。その国民運動を是非、明治維新の発祥地である下関から起こし、そして台湾の方の国づくりにも参加して下さい。日本が強くなるといふことは台湾人にとっては絶対必要なのです。台湾が中国に併呑されないことも日本にとっては必要なのです。日本人も遠慮しないで同志と思つて台湾の国づくりに参加して頂きたい。そして我々もできることなら、その中国の膨張主義に対して日本と一緒に戦つていきたいのです。是非仲間になつて下さい。ご清聴有難うございました。

——日本の隣国、中国といふのが日本にとって非常に厄介な国であるといふことを私共は骨身にしみてをりますが、これはどういふ訳でせうか。長い歴史伝統のあるあの国自体の持つてをる体質なのでせうか。それとも共産主義といふイデオロギーによつて現在政治が行はれてをる、そのことによるのでせうか。

中国は共産主義の国ではありません。共産主義の看板を使つてゐるだけなのです。中国はずつと易姓革命の下で、闘争し続けた国なのです。要は今の体制が自分にとって、闘争にとって有利であればその看板をかざすのです。今の共産主義中国は、共産主義的なものはどこにもありません。だから共産主義のイデオロギー的なものではありません。しかし中国には素晴らしい歴史伝統があると、日本人は非常に好意的に解釈するのです。中国といふ国は、国の中、外に対して20年間以上も残虐な戦争のなかつた時は一度もありません。この4000年の歴史の中で。しかも中国の体制は、日本と非常に違ふところがあります。日本といふのは、天皇家がずつつかはつてゐません。何故かといふと、これは権威と権力の分離によつて、天皇家が権威の存在であつて権力の存在ではないからです。それによつて非常に尊敬され続けてゐる。だから天皇家をずつと維持してゐる訳です。しかし中国の場合は、易姓革命によつて権力がかはつたら皆殺しにするのです。或る意味で自分も皆殺しにされるのです。だから、中国の権力の考へ方は、自分の一族郎党以外は全て敵なのです。たとへ同胞であらうと何であらうと、それは敵なのです。要するに中国人の考へは、他の人が優れてゐればゐる程、とても危険な存在なのです。この中国の権力闘争の原点は、何も政治の世界だけではありません。一般の企業の世界もさうで、全ての中国の社会の中に存在してゐるのです。だから中国の体制だけ悪いのだと、この一党体制が悪いのだと、この一党体制がかはれば中国は素晴らしい国に変身する

のだと、文化大革命の時に日本は非常に好意的に見てみた。日本のマスコミは一色なのです。その讚美なのです。中国は変身しましたか。文化大革命の中で、1000万単位の人が殺されたのです。びくともしないのです。要はそれは中国にとっては当然なのです。中国文化の体質そのものなのです。一步譲れば十歩踏み込んでくるのです。根こそぎとつていくのです。強い者に会ふとしつぽを巻いてさつさと逃げるのです。

一つ例を申し上げます。1979年、中国が戦争を起こした。中越戦争です。ベトナムに教訓を与へようと、気にいらぬから教へてやろうといふ、それだけが理由なのです。それだけが理由でベトナムに戦争を起こした。ベトナムはその時、ベトナム戦争が終つたばかりで、装備は決して良くはないけれども戦ふ意志があつたのです。結局は中国が負けたのです。中国は何でその戦争を起こしたかといふと、武器の期限切れです。使はないと勿体ないから、使いませうといふことになつた。それが中国人なのです。使つてみたら相手は恐かつたと。さつさと逃げては面子がないと、雲南省の近くのベトナムの村を皆殺しにした。これは当時の記事を探せば出てきます。同じやうに1996年の3月、中国はミサイル演習を台湾にやつたのです。実際は台湾の領海に着弾した訳ですよ。中国の軍の筆頭者は、その時アメリカに警告したのです。何を言つたかといふと、アメリカが下手に動くと言つてロサンゼルスに滅茶苦茶にしてやると。もう非常に威勢のいいこと言つたのです。その直後、プレイボーイのクリントンさんが少々見るところがあつたのです。二隻の空母の艦隊、ミニッツとインディペンダントを台湾海峡に派遣した。中国はさつさとしつぽを巻いて逃げたのです。それが中国人といふものであつて、その文化、政權とは関係ないと思ひます。中国はどんな政權になつてもこのやうな大国の体制を維持する限り、かはりません。しかしかつて中国は、非常に文化の盛んな国になつたことがない訳でもないのです。魏の時代とか、南北朝の時代とか、要は外族に統治されて非常にばらばらになつてみた時は、中国は比較的平和なのです。それは中国人にとっては幸せなのです。しかし中国の政權はそれを望んではみません。

——親日的といはれてをります高砂族の方が、靖国問題で日本に訴へをされてをられますが、私としましては非常に納得のいかないことですが、この点につきまして先生のお考へをお聞きしたいのですが。

この高砂族は、高金素梅さんといふ女性です。37歳の元タレントです。彼女は高校を卒業してから芸能界に入つてずっとタレント業をやつてきたのです。その時彼女は自分が原住民であることはずっと隠してみたのです。実際、その時の彼女は自分は漢民族だと、中国人だとずっと言ひ続けてきたのです。何故かといふと、彼女のお母さんは高砂族原住民に間違ひないが、彼女のお父さんは中国人の退役軍人なのです。中国人の退役軍人は、台湾では非常に浮いてゐる存在なのです。嫌はれてゐる存在なのです。だから被害意識も強くて、中国人意識が強いのです。それから彼女は三回立候補してゐます。台湾の選挙といふのは原住民枠があるのです。いはゆる原住民の資格を持つてゐる人間だけ投票できるやうな枠があるので比較的に当選しやすいのです。彼女はタレントで全国的な知名度があつた訳ですね。立候補して初めて彼女が、お母さんの苗字、高といふ苗字をつけて高金素梅さんになつたのです。元々金素梅だつたのです。その高金素梅さんの背後にある政治団体は夏潮、英語でCHINA TIDEといふ組織があつて、その組織が彼女の原住民の活動をバックアップしてゐる。その組織は、極めて中国に近い組織なのです。彼らの住所は、台湾台北市とは書かない。中国台北市と書くのです。その位中国意識が強い。それともう一つ、親民党とも近い。宋楚瑜さんといふ非常に中国に近い党です。何で彼女が日本に来たのか。彼女は日本については全く知識がないのです。わからないですよ。彼女は遺族ではないのです。しかし彼女は、そこまで政治的なテーマを取り上げることができる程の知恵も持つてゐない。誰が知恵をつけたのか。この誰かというのは日本人なのです。その知恵は、慰安婦問題と一緒にあります。日本人は韓国に行つて慰安婦をスカウトしてきたのです。それで仕立てて慰安婦問題にした訳です。だからその問題は、なぜ戦後すぐにはなかつたかといふと、その時問題にできると思はなかつただけです。靖国問題もさうですね。だから、それは日本のいろんな左派の団体と台湾の親中国勢力と中国との関わり。簡単に言へば、これは中国の靖国問題の戦術転換だけなのです。台湾人に要は靖国問題をやらせて、台湾と日本との友情を離間して、一石二鳥なのです。はつきり言つて、戦術的に思へば素晴らしい戦術なのです。しかし、

非常に心の優しい日本人はまさかさういふ陰謀があるとは考へないのですから、この問題はとても根が深いのです。8月1日発売の「正論」9月号に詳しく書きますのでご期待下さい。

——林先生、本日は台湾人である林先生に、日本人に対して誇りを取り戻すようにといふことで、檄を飛ばして頂き有難うございました。台湾人である林先生がどのやうな今までの境遇の中で、さういつた心根、魂、志を持たれたのか、台湾と日本の教育の違いについてお話頂ければと思ひます。

台湾の教育は日本よりもつとひどいですね。私は大学を卒業するまでずっと、反日教育を受けて来た人間なのです。しかし私は悲観的に考へてゐません。日本といふ国はとても素晴らしい国なのです。その素質がある、底力がある。恐らく説明できないものがあつて、神社に入つた途端、日本の魂を私は感じたのです。クリスチャンなのですが。確かに日本人は教育によつて駄目になつたことは事実です。しかし民族というものは、その中に一人でも駄目になりたくないといふ人間が存在すれば再生できます。民族とはさういふものなのです。教育は確かにけしからん。やつと最近になつて、教育基本法に国を愛する心といふものを採り入れようとしてゐます。しかし公明党はだめだ。国は漢字ではだめだ。クニとカタカナで書きなさいと。それが政治家のやつてゐることなのです。それを考へれば、国民の方が余程良識を持つてゐる。だから先程言つたやうに、どうやつて政治家を動かすか、どうやつて官僚を動かすか。その官僚を動かすのもやはり政治家なんのです。政治家を動かすのは皆さんなのですよ。靖国神社といふ存在は私など台湾人から見れば非常に羨ましい存在、何故羨ましいかといふと、神社そのもの日本精神そのものよりも、非常に国民運動に展開しやすいものなのです。はつきりしてゐるのですから。参拝するかしないかといふ選択肢だけなのです。これを国民運動にして、それを展開すれば、参拝すると日本に対する忠誠心がある、参拝しないと日本に対する忠誠心がないと単純化すれば良い。理や議論とか、政教分離とか、A級戦犯の問題とか、軍国主義とか戦争美化とか、そんなものに乗つてはいけません。日本といふのはさういふ意味で、紳士なのです。紳士で在り過ぎたのです。戦後50年経つて不戦の決議をやつて、それからまだ5年しか経つていないのに、もう一回不戦の決議を国会でやるのですね。2001年には、小泉さんが靖国に参拝しに行つて、靖国に参拝する理由を聞かれたら、不戦の決意を持つて参拝すると。あんなのはけしからん。何故かといふと、不戦の決意だけで戦争を阻止できない。国を守る決意で参拝したのだと言へなければ、国のリーダーではないのです。不戦の決意で参拝するとはどういふ意味ですか。国の為に亡くなつた人に失礼ではないですか。私は国を守る意志で参拝したのだと何で言へないのですか。不戦の決意、不戦の決意、それはもう何回も言つてゐる。まだ足りないのですか。1995年も一回国会決議やつて、2000年もまた国会決議をやつて、2001年にまた言ふのです。もしそれで中国が満足するのであれば、とつと一九九五年、戦後五十年の記念の国会決議で満足しているのです。それでも満足できないのです。そのやうな理屈ばかりで、もうこの靖国問題は論争をやめて下さいと僕は言ひたいのです。国民運動に轉換した方が余程有利なのです。余程やりやすい。余程日本にとつてはメリットがある。50数年間議論して結論が出ましたか。50数年間議論して、この議論に勝つたから日本が強くなつたのですか。議論や理屈は、国を愛せない人間だけが必要なのです。国を愛せない人間はたくさん理屈を並べたてて、何故私は愛せないかと。国を愛する人間に理屈なんかいらぬのです。国を愛することと家族を愛することとは一緒なのです。自然に心の奥の奥の奥から、もう溢れる湧き出る愛情で国を愛するのです。国を愛すること、国を守ることは当り前ではないのですか。私は家族を愛してゐます。しかし守りたくない。チンピラが来たら自分だけさつさと逃げる。女房子供は知らない。私は喧嘩が大嫌いだから不戦の決議で逃げます。そんなことを男として言へますか。それは言へませんよね。それは人間ではない。何で国のことはそこまで理解できないのですか。平和を愛する、平和を守れと左派はいふのです。右派も平和を愛してゐますよ。平和を守つてゐるのです。平和を愛するけれども、平和を守れと言ひながら、国を守らない。平和を守る為の力もいらぬ。それはまるで健康は欲しい、しかし体を鍛へるのはいやだと。そんな理屈が通りますか。だからそんな理屈はもういいのです。A級戦犯は、日本のA級戦犯ではないのだから。靖国神社は存在するだけで軍国主義、戦争美化だつたら、地球上の全ての国が軍国主義の国になる。政教分離のことを言ふのならば、まづアメリカに文句を言つて下さい。作つたのはアメリカであつて、

当のアメリカは大統領の就任式では聖書を持つて私は宣誓すると。けしからんと何で言へないのですか。私はクリスチャンではないから、大統領になるのは辞める。辞めたよ。そんなの聞いたことはありませんよ。何でそんな理屈ばかり言っているのですか。それは国を愛せない人間の理屈なのですよ。国を愛する人間は、人を愛する人間と一緒にいるのです。理屈はいらない。しかしこの人とどうしても別れたいとすると、いろんな理屈が出てきます。合はないとか、事業に支障が出るとか、考へが違ふとかいろいろ。愛する人間ならばそんなものは要りませんよ。靖国問題はこういう問題なのです。魂の問題は理屈でないといふと、日本人は、右翼だと言はれるからいやだといふのです。もし、国を愛することが右翼であれば、堂々とその勲章をもらへばいいのです。右翼と批判される位はどうといふことはないのです。国を守るのと、右翼と言はれるのが厭だ、どっちの方が大切なのですか。